

## 令和6年度 学校評価 目標設定

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①児童生徒一人ひとりの発達段階や障がいの状態に応じた学習課題の設定、指導方法の工夫、教材・教具の開発を推進し、児童・生徒が「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。</p> <p>②授業において、ICT機器の1人1台専用端末を積極的に利活用し、学びのツールとして有効な実践例を積み重ねる。</p>	<p>①児童・生徒の実態に応じた課題の設定、指導方法の工夫により「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。</p> <p>②タブレット端末の活用について、児童・生徒が授業等で活用できる実践例を共有し、各学部においてさらなる活用につなげる。</p>	<p>①児童・生徒の発達段階や障がいの状態について、校内研究、サポートプログラム等を活用しながら教材・教具の作成および適切な課題の設定により「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。</p> <p>②タブレット端末について、離れた場所をオンラインでつなぐこと、自分専用カスタマイズして日常的なツールとしての活用等、校内研究と関連させて事例を共有できる場所を確保し、児童・生徒が授業で活用できる体制を整える。</p>	<p>①校内研究、サポートプログラム等を利用して「すぐにわかった!」「自分でできた!」の観点で授業を計画・実践すること。また、作成した教材・教具を校内外に発信・共有することができたか。</p> <p>②タブレット端末の授業での活用について、校内研究と関連させて授業実践例を共有し、授業での活用につなげることができたか。</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>①児童・生徒一人ひとりが互いの人格や多様性を尊重し、自他を大切にすする心と互いにかかわりながら生活する力を育てる。</p>	<p>①-1 いじめアンケート(高等部)の実施により、いじめの早期発見につなげるとともに、再発防止を図り、互いの人格や多様性を尊重し、自他を大切にすする心育てる。</p> <p>①-2 地域や関係機関の資源を活用して職員・保護者研修を行い、SNSのマナーや日常の危険回避等のアドバイスを日々の教育活動に取り入れる。</p>	<p>①-1 いじめアンケート(高等部)を各学期に実施し、生徒の状況を把握するとともに、いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速に対処する。</p> <p>①-2 保護者向けにSNSに関する研修会、保護者や地域の方、職員向けに性教育に関連した内容の研修会を実施する。</p>	<p>①-1 いじめアンケート(高等部)により生徒の状況を把握し、いじめの早期発見及び防止に努めて、自他を大切にすする心育てることができたか。</p> <p>①-2 保護者向け研修会、職員向け研修会等により得た内容を参考にして、生徒がSNSのマナーや、身を守ることを学ぶことができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<p>①成功体験を積み上げる教育活動により自信や意欲を高めて、将来の自立と社会参加や、自分らしい生き方を見つけるための支援を行う。</p>	<p>①-1 将来の自立と社会参加や、自分らしい生き方を見つけるための支援を行う。</p> <p>①-2 進路先の見学会、保護者向け進路学習会を実施し、児童・生徒が将来の生活をイメージできるように支援する。</p>	<p>①-1 日々の教育活動でよい所、得意な所を見つけて、その部分をさらに伸ばす支援を行う。</p> <p>①-2 小・中学部向けに進路見学会、保護者向け進路学習会を実施する。</p>	<p>①-1 保護者・教員間でよい所、得意な所を共有し、教育活動に取り入れることができたか。</p> <p>①-2 進路先の見学会、保護者向け進路学習会を実施し、児童・生徒が将来の生活をイメージできるように支援することができたか。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域社会を実践的な学びの場ととらえて、日々の学習で培った力を地域社会への貢献活動として発揮するなどの取組を教育課程に位置付けて実践する。</p> <p>②地域に開いた学校行事を、地域と連携・協働して企画する行事に発展させ、継続する。</p>	<p>①地域社会で学ぶ内容を教育課程に位置付けるとともに、地域の方や保護者に向けて取り組み内容を発信する。</p> <p>②地域と学校の行事について、作品展示や発表などお互いにメリットがある内容を実施し、児童生徒の自信につなげる。</p>	<p>①児童・生徒の地域活動として清掃活動、施設の活用等に取り組み、HP等で発信する。 近隣大学との授業等の連携について模索し、実施につなげる。</p> <p>②田園調布学園大学、王禅寺町内会、子ども文化センター、ヴィラージュ虹ヶ丘等とお互いにメリットがある活動内容を検討、実施する。</p>	<p>①地域社会で学ぶ内容を教育課程に位置付けて、活動内容を地域の方や保護者に向けて発信することができたか。</p> <p>②地域と学校の行事について、お互いにメリットがある内容を実施し、児童生徒の自信につなげることができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」を活用し、児童・生徒が安心して学ぶことができる学校にするとともに、取組の好事例を共有する仕組みを構築して、短期間で内容の充実・更新を図る。</p> <p>②災害時や非常時に備えて、関係機関と協力して訓練・研修等に取り組み、児童・生徒が安全に学ぶことができる環境を整える。</p>	<p>①児童・生徒への丁寧なかかわりの取組について、発信・共有できる仕組みを作り、保護者の意見を取り入れて内容の充実と職員の意識向上を図る。</p> <p>②スクールバス運行時など児童生徒通学時の安全確保について、関係機関と連携して具体的な対策を作成し検証する。</p>	<p>①児童・生徒への丁寧なかかわりの取組について、学部等から発信・共有する。保護者アンケートを実施し、意見を取り入れて内容の充実を図る。</p> <p>②スクールバス運行時に災害が起きた場合の安全確保について、川崎市(区役所)および関係機関と連携して計画を策定する。</p>	<p>①児童・生徒への丁寧なかかわりの取組について、職員間で発信・共有することができたか。保護者の意見も取り入れて内容の充実を図ることができたか。</p> <p>②スクールバス運行時など児童生徒通学時の安全確保について、関係機関と連携して具体的な対策を作成し検証することができたか。</p>